



「活弁」を日本から世界の文化に!



Koyata Aso

私から「ヒトコト」

●活弁士とは?

「活弁士」とは、無声映画を上映する際に、スクリーンの脇で映画の説明をする方です。単なる映画の説明に終始するのではなく、様々な工夫を凝らし観客を盛り上げます。無声映画を面白くするのもしないのも活弁士の腕次第とも言われています。

●活弁士の魅力

活弁士の魅力は何と言ってもライブ感ですね。普通の映画は撮影してしまえば、いつ見ても同じものですが、活弁士は同じ映画を上映しても地域などによって様々な面白さを引き出せるんです。例えば、地方で公演するときはその地方の方言で活弁をしたりとか、その地方の特産品をせりふに入れてたりとかですね。それだけで、お客さんとの距離がぐっと近くなりますよ。

●埼玉の思い出

私は活弁が本当に大好きなので、多くの人々に知ってもらいた

かったです。そこで考えたのが世界の国や地域で最も多く使われている英語で活弁をやることになったんです。中学2年生の時、ホームステイでアメリカに行ったのですが、そこで初めて英語の活弁をしたんです。そうしたら、日本と違ってお客さんの方からどんどん話しかけてきてくれて、すごい熱気を感じたんです。私にとってもとても衝撃的でした。「面白い!!」と感して、すごく興味が湧きました。

ただ、英語の活弁は悩ましいことでもあります。日本の映画を外国で上映するときは、日本独自の文化を説明するのは難しいです。「旧正月」とか「元禄時代」とか、急にでてきても説明する時間はないですからね。反対に、泳ぐときの「スイスイ」とか、登るときの「ヒョイヒョイ」というような擬音語も難しいんですが、これは無理に英語にせずに日本語のまま言うところが盛り上がり上がってくれるんです(笑)

●埼玉県の魅力は?

うーん、これが好きだからとかではなく、無条件に埼玉県は好きですね。例えば地元では、ジョギングの途中に公共の休憩所に行ったことがあるんですけど、そこにいた方々に地元について

熱く語られたりして、またジョギングに行くときは「いつてらっじゃーい」なんて言われるんですよ。すごい温かいですよ。ね、やっぱり埼玉県は「人が一番好きかな(笑)」

●観客へのメッセージ

是非、是非、活弁の公演を見に来ていただきたいね!!公演を見ていただければ「日本で誕生し発展した活弁」という芸能が身近にあるんだ!!ということを知っていただければいいかなと思います。

活弁士 麻生子八咫さん

あそひやた

プロフィール

埼玉県出身。父であり師匠でもある「麻生八咫(あそひやた)」さんの影響を受け活弁士を目指す。10歳で「活弁士」としてデビュー。16年目の現在は英語で活弁をする唯一の活弁士とされている。全世界の人々に「Katsuben(活弁)」を広めることを目標に、若きベテランは世界に羽ばたく。麻生子八咫さんの公演予定はHPをご覧ください。

<http://www.katsuben.com/index.html>



埼玉プレイクの配布は、以下の映画会社様にご協力いただきありがとうございます。

県内への送料かけは便利な郵送をご利用ください。

JR 西武鉄道 TOBU 東武 秩父鉄道 埼玉新都市交通 埼玉高速鉄道 つくばエクスプレス

埼玉プレイク Vol.04
【編集発行】彩の国さいたま魅力づくり推進協議会事務局 E-mail: a2840-29@pref.saitama.lg.jp
7330-8301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 広聴広報案内 tel:048-830-3192 fax:048-824-7345